

●新作部門

(国内小説・実写作品賞)

- ・「ジェミニの方舟—東京大洪水」(高嶋哲夫、集英社)
 台風予測プログラムの開発している主人公たちは台風による大洪水で荒川と隅田川が氾濫した場合の決壊の可能性のある危険箇所、洪水の広がり方などのハザードマップを作っている。台風23号が日本に接近するが、幸いにも南方に逸れ、南下していくところ、台風24号が北上してきた。主人公らのシミュレーションでは両台風の合体を予測する。
- ・「火星ダーク・バラード」(上田早夕里、ハルキ文庫)
 天蓋で覆った空間を地球化するパラ・テラフォーミングの行われている火星。連続女性殺害犯、過去に傷を持つ捜査官、デザインド・ベイビーでプログレッシヴと呼ばれるヒロインの3人の劇的なドラマ。地下の永久凍土内で冬眠していた微生物が重要な役どころとなる。
- ・「人魚と提琴 玩具館綺譚」(石神茉莉、講談社ノベルズ)
 本作品の人魚は魚の特徴を備えたヒューマノイド型らしく、不老不死でセイレーン伝説のように滅びの歌を歌い、普通の人間はそれを聞くと死んでしまう。人間の男と交わって子供を生むこともでき、必ず双子を産み、一方が海に帰り、一方が陸に残る。陸に残る子供は誕生直後は肌が鱗に覆われたようにも見えるが、成長すると人間と変わらない。
- ・「イーグル号航海記 1. 魚人の神官/2. 針路東、砂漠をこえる!」(斉藤 洋、偕成社)
 ドイツの少年である主人公は気まぐれで行った港で天才科学者が発明した潜水艇イーグル号の乗組員となる。北海の巨大な渦を通り抜けると巨大な岩のドームであり、そこには8つの洞窟があった。第1巻は魚人たちの世界の話。第2巻は砂漠に住むサボテン人たちの世界の話。
- ・「迷宮の冒険ファンタジー 1. 海の北斗七星/2. 101号室の謎を追え/3. 海底神殿」(星さいか、光文社)
 第1巻は、アンコールワット遺跡の南方のトンレサップ湖をダイビング調査したヒロインたちは、そこで手がかりを得て幻の都シャングリラを求めてインドに向かう……。第2巻は、少年の住むアパートに越してきた謎の男。なんと、その部屋は異次元空間へ誘う入り口へと続いていた……。第3巻は、日本の海底に眠るといふ幻の王国を求めて消息を絶った兄との再会を信じるヒロインは、約束の海へと向かう。満月の夜、奇跡が訪れる……
- ・「アルワラの潮の音」(「フリーランチの時代」所収、小川一水、早川書房)
 海洋民族国家複合体に、突如として訪れたパワーバランス

の崩壊。異形の輩の侵略を、時を越えて阻止する者たちの物語「時砂の王」の外伝。設定が「失われた時間の鍵」を曳いているようで、懐かしいテイスト。

- ・「妙なる技の乙女たち」(小川一水、ポプラ社)
 軌道エレベーターの実用化に伴って、宇宙に最も近い場所となったリング諸島と海上都市。その経済の膨張を背景にした、様々な職業と人々を描いた連作短編。港湾交通艇の女性艇長と、高度な生態系を守ろうとする造成企業オーナーの物語。

(海外小説・実写作品賞)

- ・「深海のY r r」(フランク・シェッツィング、ハヤカワ文庫NV)
 この作品、『海洋科学基礎講座』全6巻をハリウッドのパニック映画にした”といえよだろうか。普通の長編小説の数冊分にも匹敵する比類なき海洋SF大作である。てっきり海洋オタクの一発もの作品かと思えばそうではない。元ミュージシャン志望、広告代理業も経験したという文系の人気作家であって、しかしその熱心さと筆力はタダモノではない。
- ・「太陽の盾 <タイム・オデッセイ2>」(アーサー・C・クラーク、ステイーヴン・バクスター、早川書房)
 かつてない太陽風の放出で地球磁場が大きく叩かれ、地球上は大きな打撃を受けた。ところが、これは序の口で、巨大磁気嵐を予測したニュートリノ学者はそれよりも一万倍もの太陽風の発生を予測していた。この未曾有の危機を乗り越えるため、地球と太陽の第一ラグランジュ点に地球サイズを越える盾を建造することになる。
- ・「少年探偵団ザ・スリー 1. 幽霊船/2. アトランティスを救え!」(ウルフ・ブランク、草土文化)
 米国西海岸の港町に住む3人の少年からなる少年探偵団。第1巻は沈没船の宝物を巡る事件で海洋学研究所の水陸両用艇”ポセイドン号”(6人乗り)が登場する。第2巻はサンタバーバラの近くに開演したアクアパーク”アトランティス”での事件で〈ノーチラス号〉が登場する。
- ・「揺籃の星」/「黎明の星」(ジェームズ P. ホーガン、創元SF文庫)
 21世紀後半、地球ではリスクの大きな遠隔地への投資を敬遠して宇宙開発が停滞する一方、土星の衛星上では一部の人類が先進的な植民地を築き、貨幣によらない独自のシステムによって暮らしていた。前編では木星からほぼ地球サイズの白熱する蒸気とマグマの原始惑星が飛び出し、その長大な尾が地球を飲み込み、地球からの脱出劇。後編は数百万年かかる地殻変動が数時間から数日で再現され、より離心率の大きい

軌道に移行してしまった地球。そこに生存者がいた……。

- ・「**日本海**の海賊を撃滅せよ！」(クライブ・カッスラー、ジャック・ダブル、ソフトバンク文庫)

日本海の高流調査を行う海洋調査船が残酷な海賊に襲われ、唯一海賊の目を逃れて生き残ったヒロインは、船内に閉じ込められたまま船とともに沈む。主人公らは日本海の高賊退治を依頼され、オレゴン号自らオトリとなり、襲ってきた海賊船を撃退するが、その際に海賊船が投棄しようとしたコンテナの中から三十体ほどの死体が。その際、オレゴン号は水深20mの密度躍層に留まっている沈没船を発見する……。

- ・「**センター・オブ・ジ・アース**」(エリック・ブレヴィグ監督)

今は亡き兄の遺志を継ぎ地質学研究に打ち込む冴えない主人公。過去に取り付けたアイスランドの地震調査装置が異常な計測地を示す。現地山岳ガイドのハンナを加えて現場のスネフェル山脈にたどり着いた彼らを、激しい落雷が襲う。避難のために入った洞窟を進むことになる3人に、突如地底世界への入口があらわれた。

- ・「**紀元前一万年前**」(ローランド・エメリッヒ監督)

マンモスと人類が共存していた時代。氷期から間氷期に移る頃だが、ヤンガードライアス現象を髣髴とさせる寒冷化によって新たな土地を探索する旅に出る。まじめかと思ったら、終盤は異星人による超古代文明による支配と戦う。

- ・「**ハローサマー、グッドバイ**」(マイクル・コニイ、河出書房新社)

新訳による。極寒の惑星に住むヒューマノイド型異星人たちの物語。主人公の少年が両親と休暇を過ごすためにやって来た土地で少女と出会い、恋におちる。小型船で海に出発した少年らは、恐ろしいアイス・デビルやグルーム・ライダー、絹の毛皮をもつローリンに遭遇する。そんな冒険とは裏腹に、この惑星では巨大な陰謀が進行していた。それは、この惑星と巨大惑星そして太陽を含む系と関連しあっていた。

- ・「**水棲人**」(「**紅色海洋**」に収録、韓松、SFマガジン)

白人とその他に2極化した世界。最終戦争が迫る中、安全な海中で永続的に生活可能な、水棲人の開発が進められている。

- ・「**チェンジリング・シー**」(パトリシア・A・マキリップ、小学館)

漁村の宿で働く少女ペリは、漁に出ている父を海に奪われて以来、海に small magic(呪い)を向けていた。取替え子である王子キールと鎖でつながれた海の怪物(もう一人の王子)、魔法使いリョウが登場し、ペリの呪いが海の女王の魔法を逆転する。

- ・「**フェレットの冒険1・海の救助隊**」(リチャード・バック、新潮社)

海で遭難した動物たちを救助する、レスキュー・フェレット(イタチの仲間)の活躍を描いたお話。

- ・「**インパクト・ゼロ**」(ガルリエル・プログナー監督)

マリアナ海溝で米原潜が突如消えた! 凄腕潜水艦乗りにして発明家のアロナックス大尉に捜索が命じられるが、彼が駆る最新鋭潜水艇 A3 号に上官として彼の元妻にして共同開発者だったコンセイユが乗り込む事に。トラブルを乗り越えて何とか深海のスコシア号を発見した A3 号クルー。だがドッキング装置の故障から船内の酸素が漏れ出し、全員が気を失ってしまう。そしてアロナックスたちが目を覚ましたのは、ネモ船長の超巨大潜水艦ノーチラス号の船内だった!

(アニメ・コミックス賞)

- ・「**星野之宣 SF 作品集 1 CONTINENT**」(星野之宣、光文社コミック叢書)

「ブルー・シティ」の前編「海の牙」と続編「ブルーバトル」ほか収録されている。休戦期間の終わりが近づき緊迫する中、両陣営は互いに第一の切り札を発動させる。

- ・「**アイ〜光と水のダフネ〜**」(土貴 智志、シリウスコミックス)

ようやく下巻が出て完結。9つの深海都市のひとつ「ノイモン」は深海実験都市として計画された。それが建設されてまもなく、突然、なぜだか地上との更新が途絶える。どういう原因だか地上が減んだのち、9都市に残された2百万人は人類の最後の希望として深海で生き抜くことを決意。ヒロインは水上バイクの天才的テストドライバーで、しかもなぜか地上からのノイズを感じ取ることもできる。

- ・「**カグツチ**」(漫画: 正吉良カラク、KC デラックス)

「死都日本」のコミックス化。母の仕事の転勤で火山学者の父のいる宮崎へ引越してきた綾。そんな矢先に「宮崎沖地震」が発生し、少なからぬ被害が起こる。霧島の噴火を予測する父に会おうと、綾たちは霧島へと向かう。しかしその直後、霧島が噴火を起こし、未曾有の大災害を引き起こす。被害から免れようと、必死に車で逃走する綾たち。果たして、彼らは生き残れるのか……?

- ・「**崖の上のポニョ**」(宮崎駿監督)

アンデルセンの「人魚姫」の現代版。ポニョの父フジモトはネモ船長の潜水艦ノーチラス号のアジア少年船員という設定。ウバザメ号を操り、海洋農場(サンゴ塔)で生命実験を行う。ダイオウイカ、コバンザメ、ネコザメ、デボン紀中期〜後期のポトリオレピス、デボン紀前期〜中期のディブノリンクス、架空のデボネクスが登場。

- ・「**pieces of love つみきのいえ**」(加藤久仁生監督)

海面の上昇とともに、上へ上へとレンガを積み上げた家。

娘夫婦が独立し妻に先立たれて一人暮らし老人は、下の階の海中に落としたパイプを拾いに降りていくと、階を降りるごとに過去の思い出がよみがえってきて……。

・「**未来少年コナン 30周年メモリアルボックス**」(宮崎駿監督)

1978年にTV放映された本作品の設定では2008年に磁力兵器の使用が引き起こした〈大異変〉が発生する。その2008年を記念したメモリアルボックス。

・「**HOTEL**」(Boichi、講談社)

高温・高圧化していく地球を見守るDNA貯蔵庫「HOTEL」の物語「HOTEL-SINCE A.D. 2079」。最後のマグロを食べた男の生涯を描く「全ては…」。

・「**セブンオーシャン**」(水無月すう、YJコミックス)

借金づけの男・七海世界は、借金を帳消しにしてもらう代わりに、危険な海の未確認動物を捕獲する羽目になるが、彼にとってその仕事は天職だった。メガロドン、オクトパス・キガンテス、新種のナマコ、エラスモサウルス登場。

・「**マリンハンター**」(大塚志郎、少年サンデーコミックス)

21世紀末、人工島以外の全ての陸が消えた世界。海洋生物の能力を取り込んだ人間・フィッシュハーフの物語。

・「**水武士**」(黒背骨実角、小学館、付録冊子のみ)

「喉鼻」と呼ばれる長大なシュノーケルと錘を用い、船には乗らず、水中戦闘を専門とした「水武士」の家督争いを描いた力作。

・「**万祝 [まいわい]**」(望月峯太郎、講談社)

祖父の残した海賊バンクの地図の記憶を頼りに、女子高生が未知の海へ船出する、「宝島」な物語。行く手には、現代科学を寄せ付けない過酷な環境と、トビミズチ(メガロドン)の支配する恐るべき海が待ち受けていた。

・「**極東綺譚**」(衣谷遊、講談社)

明治末期、陸を浸食する「原初の海」の再構築を試みる輩と、その暴挙に対抗する者との闘争を描いた伝綺譚。「環日本海水棲文化」の中身は、概ね予想通りでしたが、回収し切れていない伏線が、結構あります。

・「**RD 潜脳調査室**」(宮野桃太郎、吉川博尉、TVアニメ、マガジンZコミックス)

2012年、建設半ばの海上都市「人工島」は怪現象により崩壊。50年後、完成された海上都市と高度情報空間メタリアル・ネットワークは、再び同種の現象に遭遇していた。

(画集・絵本)

・「**くじら号のちきゅう大ぼうけん 深い海のいきものたち**」(さとうたかこ、絵本、JAMSTEC BOOK)

珍しい深海探検の童話絵本。ある日、少年たろうは浜辺に漂着したくじらおを見つめる。実は故障した潜水艇くじら号。

乙姫という少女とネコ型生物が乗っていた。たろうが持っていたゲーム機の部品でくじら号の故障が直り、たろうは乙姫たちと深海への旅に出発する……。迫力ある熱水噴出孔生態系の画像などが使われている。

・「**HYPER WEAPON 2008: 狂気原風景 そして真実**」(小林誠、「艦船模型スペシャル別冊」収録、モデルアート社)

RPG「ロスト・オデッセイ」のコンセプト・イメージが収録されており、全長1km近い客船ホワイトボアや変形するノーチラスを収める。とはいえ、サイズやデザインに限って言えば、現実に登場しつつある。

・「**山根公利メカ図鑑**」(山根公利、エムディーエヌコーポレーションズ)

「タイドライン・ブルー」を含む、各種作品のメカ設定集。

「Hobby Japan」誌の連載記事も、扱いは小さいが収録。

・「**アニメーター逢坂浩司イラスト&ワークス**」(逢坂浩司、角川書店)

火星の海を舞台にした「絢爛舞踏祭マーズ・デイブレイク」(2004)に於て、キャラ・デザインとADでもあった著者(2007年、逝去)の作品集

・「**オーラフとサンタクロース、海底にプレゼントをはこぶ**」(フォルカー・クリーゲル、草土文化)

オーラフはアイスホッケーをしているときに、氷が割れて海の中へ。海の底のふしぎな光に気づき、サンタクロースともぐつてみたら、黄金の財宝にみちた海賊の国を発見します。年をとった船長のねがいはただひとつ、夏至の日にガチョウを食べて、クリスマスツリーをながめること……。でも、いったいどうやって？ 夏に、しかも海の底で。

(ノンジャンル・クロスオーバー作品)

・「**階層構造の科学 宇宙・地球・生命をつなぐ新しい視点**」(坂口秀ほか、東海大学出版会)

生命のリズム、宇宙に光り輝く星、空に湧き上がる雲、海から生まれる大陸――自然界の階層構造はなぜ存在し、その存在を認識すると何が見えてくるのか。生命・宇宙・気象・地殻活動に潜む階層構造の姿を見出すことによって、複雑な自然現象間の関係が明らかになり、予測が可能となる。分野を超えた新しい科学の方向性を示す。

・「**イルカと、海へ還る日**」(ジャック・マイヨール、講談社文庫)

ジャック・マイヨールは閉息潜水の第一人者で、リュック・ベッソン監督の「グラン・ブルー」のモデルでもある。マイヨールは意外にも日本と関係が深い。友人で数少ないよき理解者であり、「ニューシートピア計画」で潜水医学部門のリー

ダーでもあった関邦博による翻訳。マイヨールは「ホモ・デルフィナス」という原題に象徴されるようにイルカから大きな影響を受けており、鯨類がいったん陸上に進化した後に海に還っていったように、人類も海に進化できる可能性を追い求めていた。

・「AQUANAUT'S HOLYDAY -隠された記憶-」(PlayStation3)

南太平洋にある大規模な環礁”キシラ環礁”は閉鎖的な環境のため独特の生態系を形成している。この環礁内には研究施設キシラベース（別称アクアヘブン）がある。天才的な海洋学者のウィリアム（ビル）・グラバーはドルフィン1号に乗ったまま行方不明となった。海洋ジャーナリストの主人公はビル失踪の謎を解き明かすため、擬似人格システム”ANIMA”を搭載するドルフィン2号に乗ってキシラ環礁内を調査する・・・。

・「ありえない!? 生物進化論 データで語る進化の新事実 クジラは昔、カバだった!」(北村雄一、サイエンス・アイ新書)

鳥やクジラの先祖は何だったか、現在では見かけがまったく違う動物の間の進化の関係を知るために、化石、骨、遺伝子など非常に限られたデータからいくつかの仮説のどれかもってもらいかなを見抜く方法を考える。

・「チェンジング・ブルー：気候変動の謎に迫る」(大河内直彦、岩波出版)

気候変動の研究に大きく貢献したエミリアーニ、シャックルトン、ミランコビッチ、キーリング、真鍋淑郎、ストンメル、ブロッカー、ダンスガード、オシュガー、ハインリッヒらがどのように研究に取り組んだかを紹介しつつ、海底堆積物やグリーンランド・南極氷床からどのようにして過去の気候を復元するかを分かりやすく解説する。

・「ディープアクエリウム 奇跡の深海」(ニンテンドーDS)

まずは JAMSTEC に行っ て しんかい6500で前方障害物ソーナー画像を見ながら潜水船の深度と方位を変えて接近し、レンジを変えて水中窓に姿を捉えたらマニピュレータで深海生物を採取。初めての種類だったら離底してS、M、L(小・中・大)の水槽に入れる。捕獲後、いちいち離底して生物を水槽に追加しないと、次の生物が捕獲できないのがちょっとまどろっこしい。

・「Second Life」(Linden Lab社)

ハイスペックなPCで楽しむ3D仮想空間でメタバースとも呼ばれる。多体衝突、重力などの物理モデルとしてHavok4が、光の反射・透過などはWindLight、大気循環は2次元非圧縮流体計算、雲はセルオートマトン法が導入されている。海底ドーム都市“Atlantis”、「海底2万里」の原作に忠実に外観・船内が再現されたノーチラス号の置かれた“Vernian Sea”、実物大戦艦大和が置かれた“Yamato of Japan”など見所多数。

・「潜水調査船が観た深海生物：深海生物研究の現在」(藤倉克則ほか、東海大学出版会)

JAMSTEC の潜水調査船が日本周辺海域にて調査・収集してきた深海生物の情報を公表する。わが国初の深海生物生態図鑑であり、深海生物学のテキストである。

●オンライン作品・同人誌部門

・「” SPINKLES” スピंकルスの惑星 キャプテン・クロノの漂流記」(zenk∞)

琴座ベガ星系の惑星ゼトロスに人類移住計画の事前調査に訪れた宇宙船が着陸に失敗。ゼトロスには過去に文明が存在した証拠が数多く発見され、さらに車輪、キャタピラ、プロペラ、スクリュー、タービン、気囊を持った不思議な生物たち Spinkles に遭遇する。

・「MYSTIC LIFE」(たみとし)

相次いで無人小型深海調査艇の事故が発生。幾つかの触手を持つ生命体が発見される。触れ合うことで同化でき、知恵も栄養も共有し合える彼ら。マリアナトフでミスライ研究所の深海探査船が試運転を開始。女性パイロットを乗せて犬の散歩道と名付けられた峡谷を探索する。彼らに撃退されたイカに襲われた深海探査船は浮上不能となる。彼らは・・・。

・「ブルートラップ」(たかろく)

米原潜が謎の爆発事故を起こす。この艦尾を突き出して緊急浮上するシーンが秀逸！ 同艦から51人が脱出し、その功績が認められた副長はコンピュータ制御された新鋭艦ブルーホープの艦長に昇格する。ところが事故の真相を解明するため女性捜査官がブルーホープに技術少尉として潜入する・・・。

●オールタイムベスト部門(洋上都市・海底都市SF)

・「動く人工島」(1895, ジュール・ヴェルヌ)

当時最高の科学技術を使って作られた人工の島スタンダード島。裕福な人々を乗せて南太平洋の航海に乗り出す。

・「海底都市」(1947, 海野十三)

三浦半島剣崎の沖合15km、水深100mの海底下にある都市「スマレ地区」。そこは人口100万人規模。動く道路が張り巡らされ、原子力エンジンを使って日本海溝の金鉱採取工事が行われていた。

・「海底の地震都市」(1958, F・ポール & J・ウィリアムスン)

イーデナイト装甲の発明によって、世界の深海に巨大なドームで覆われた海底都市が次々と建設されている。地震予知の失敗を教訓に、地球全土に地震予知網がはりめぐらされ、インド洋ジャバ海溝のふち水深5000mに最新かつ最大の海底都市クラカタウが建設された。

- ・「**青の6号**」(1967, 小澤さとる)

太平洋中央にあるマラコット海山に「青のドーム」があり、海中航路の安全と救難を目的とした組織「青」の本局が置かれている。青の所属艦隊と、世界制覇を狙う多国籍企業マックスの戦闘艦<ムスカ>、浮遊式潜水艦基地<ストリーム・ベース>、<ヤマトワンダー>、赤ハゲとの戦い。
- ・「**ジャイアントロボ**」(1968, 横山光輝+小沢さとる)

世界征服をもくろむ謎の秘密結社「ビッグファイア」(BF団)は、ジャイアントロボの開発を進める。国連特別捜査機構の работникと疑われた日本人旅行者の草間大助はBF団に拉致されるが、ジャイアントロボとともに日本に生還し……。そのBF団の海底基地はジャイアントロボが楽に立ってうろうろ歩ける広さ、水爆を搭載した大型戦闘潜水艦のドックもある。
- ・「**緯度0大作戦**」(1969, 東宝映画)

「緯度0度」とは赤道と日付変更線の交わった所。その海中にユートピア的な海底都市がある。海底火山の噴火を観測していた日本の潜水球が噴火に巻き込まれたところをアルファ号という近代的な潜水艦に救出される。ところがマッドサイエンティストの手先である黒鯨号がアルファ号をしつように付け狙う。マッドサイエンティストの根城ではドクターモローの島のように獣と人間の合成というおぞましい実験が繰り返されている。アルファ号はいよいよマッドサイエンティストとの対決に向かう……。
- ・「**わが赴くは蒼き大地**」(1974, 田中光二)の4つの海中都市

2205年、地球にエイリアンが来襲し、人類は4つの海中都市に5万人が生存するばかり。エイリアンにとってある種のインフルエンザ・ウィルスが致命傷となることが判明。その培養に必要なピラエラという褐色藻を手に入れるため、“オセアノート”、通称“エラ人間”であるチヒロとA級精神感応術者である美少女ジャンが<ノーチラス十世>で冒険の旅に出る……。
- ・「**ブルーシティー**」／「**バトルブルー**」(1976/84, 星野之宣)

強力な突然変異を引き起こす謎のウイルスによって人類が絶滅に瀕し、それに対抗する人類自決指令によって地上・海上の人類・生物が全滅。人類自決指令とは、細菌を殲滅して海の生物を助けるために、地上2万mで水爆を大量に爆発させてオゾン層を破壊するというもの。残されたのは実験海底都市<ブルーシティー>の若き科学者2万人と子供10人。
- ・「**海底基地 SOS**」(1977, 高橋泰邦)

赤道を越えた水深200m近くにある海底基地(正式名称は「世界連邦海洋開発機構 UES16072」)が舞台。潜水貨物船船長が氷漬けの漂流船を目撃するがすぐに消えてしまって誰からも信じてもらえない。その後、海底基地に所属する潜水母船と2隻の潜水巡視船がなんの痕跡も残さず消息を絶つ。さ
- らに、海底基地が放牧している鯨が失踪の後、冷凍状態で発見された。この3つの事件の背景には思いもよらないことが。地球人類の運命が二人の少年少女の肩に……。
- ・「**アフロディーテ**」(1980, 山田正紀)

2003年、国連の提唱により海上都市”アフロディーテ”が完成する。人口20万人、巧妙にカモフラージュされた防波ダンパー幅50mのいかだ状構造物を連ねた消波装置一で囲まれている。
- ・「**大漂流**」(1984, 田中光二、怒りの大洋三部作)

海洋牧場、海底鉱山開発計画、海洋エネルギー開発計画、海底植民計画が進められている時代。2001年より<ポセイドニア>と<トリトニア>というエネルギー自給型・漂流型の洋上居住システムの開発が着手され、その20年後にはそれぞれ人口5万人を擁するに至っている。それを爆破しようとするテロリスト集団の陰謀を阻止するため、国際管理局の水中救助部隊が<ポセイドニア>に派遣される……。
- ・「**深海伝説・臥竜篇**」(1989, 斉藤英一朗)

2152年、複合大気汚染が原因となって平均気温が2度C上昇。これによって内陸部の砂漠化が進み、南北両極の氷の大半が融け、海面が20m以上も上昇した世界。海上浮遊都市”わだつみ”(直径約5.2km、正三角形を逆さまに重ねた六角星形。人口6万8千人)が登場。
- ・「**海洋戦闘ダイバード**」(1989, 遠藤明範)

何者かが引き起こした「大洪水」によって海面が200mも上昇した世界。ベアトリスとマシューの姉弟は命の恩人イゴール・ヴィンスキーから預かった双胴型高速艇<ローズ・シャロン号>と潜水艇<ケルビン号>で水没した世界を調査する仕事を請け負っている。そこで舞台となるのが<ダイナス・シーアイランド>、<エルザス>などの海上都市。
- ・「**万物理論**」(1995, グレグ・イーガン)

人工の島<ステートレス>は南太平洋の公海上、無名の平頭海山に固着していた。青白い6本足のヒトデのような形。百万人が住んでいる。親石性細菌が水と二酸化炭素を吸収して、炭水化合物と酸素を作る。この細菌はデオキシリボースのような“脱酸素”炭水化合物を作り出し、吸収した二酸化炭素よりも多くの酸素を放出するので、差し引き浮力を増加させる。島の下面は絶え間なく侵食されているが、工学的珪藻類がその修復装置となっている。
- ・「**ソリトンの悪魔**」(1998, 梅原克文)

2016年、音波をエネルギー源とする海中の巨大な存在『サーペント』が、与那国島の沖合に完成したばかりの海上情報都市<オーシャンテクノポリス>を破壊し、日本初の海底採掘プラットフォーム<うみがめ200>を危機に陥れる。<オーシャンテクノポリス>は5km四方の正方形デッキ4層、浮

カタンク付きの脚柱 1 万本で海底に軟着陸させた多脚式軟着底型。

・「スタンダードブルー」(1999, 宇河弘樹)

2024 年、世界人口が百億の大台を目前とし、食糧危機が深刻化して海洋牧場への期待が高まっている時代。沖縄の環状海上都市<スタンダードブルー>でサルベージ業「うしお海洋便利屋」を営む祖父のところに(わけありの)孫娘が界面翼船(シールドシップ)の定期便でやってきた・・・。

・「西の 22—最終戦争シリーズ(2)」(2000, 山田ミネコ)

2196 年に完成した海底浮遊都市「西の 22」と 2296 年に勃発した最終戦争で滅びゆく世界を描くシリーズ。西の 22 は日本海溝に沈むが再浮上。

・「G - SAVIOUR」(2000, ガンダム映画)

大西洋の深海農業研究施設付近において、モビルスーツ 11 号に搭乗して作物の収穫中だったマークは、突然落下してきたモビルスーツのパイロット、ティム中尉を救出する。マークは侵入者シンシア博士と、地球圏に迫っている食糧問題を解決する鍵となる熱源を持つ生物発光体のサンプルを手に入れるが・・・。

・「ゼリーフィッシュ・ガーデン」(2002, 上田早夕里, 未刊行)

《ブルー・モジュール》は、海洋関係の学術調査と、各種の海洋開発・海洋実験を行う実験都市で、研究都市としての側面と、海洋資源開発の経済的発展を促進するという、ふたつの貌を持っている。この実験都市上で働く深海生物研究班の中に、深海のクラゲを研究しているスタッフがおり、彼らが研究している新種のクラゲが、ストーリー展開上の軸となる。

・「空想科学エジソン」(2002, カサハラテツロー)

滝の底に在る外界から隔離された都・ノスタルジア。滝の上から落ちてくる機械を修理して人々は暮らしていた。滝の上から落ちてきた言葉を話す機械の球・エジソン。彼と出会い、主人公ミロは滝の上の世界へ冒険の旅にでる。水中探鉱都市<ニュートンキン>と移動島<狐の城>が登場。

・「第六大陸」(2003, 小川一水)

西暦 2025 年。南沙諸島のラヤンラヤン島から 5 km 沖合、水深 2000m の深海都市「ドラゴンパレス」が登場。直径 30 m の 7 つのドームからなる。

・「深海の大河—セス・コルトンシリーズ(2)」(2003, エリック・ローラン)

地球規模の異常気象を起こす環境テロリスト。彼らは

南極に近い南太平洋の、深海 9000 メートルの海底に(バイヤー海底基地)を建設し、グリーンランド海流を操って地球の気象を意のままに操ろうとしていた。グリーンランド海流は、極地の深海に沈み込んだ海水が 2000 年の時を経て南極の海水と合流し太平洋の真ん中に浮上してくる。この流れをほんの少し変えるだけで地球は氷河期に入り、人類の大半は死亡するのだ。

・「復活のヴェヌス—ヴェヌスの秘録 4」(2003, タリス・リー)

海底に沈んだヴェヌスが、巨大コンピュータ C X に制御されたマグナ・オブテックス製のエア・ドームに覆われて 18 世紀の姿のままに復元される。海上から海底ドームまではサブヴェネリンというドーム状の船で往来する。かつてのヴェヌスの血縁者がドーム都市に住む有資格者として各地からぞくぞくと集まるが、そこでは古代ローマ時代の女剣闘士と、17 世紀の作曲家を当時の記憶を持ったまま現在に蘇らせるプロジェクトが進行している。

・「9S ナイン・エス」(2003, 葉山 透)

行方不明のマッドサイエンティスト峰島勇次郎が残した遺産のひとつ、循環環境実験施設スフィアラボー特殊ガラスでできた直径 525m の球がハイジャックされた。コンピュータシステム LAFI が管理。太陽光と海流エネルギーのみを利用する完全閉鎖型。

・「総合海洋研究グループ」(2003, 山之内照海)

T 山が噴火し、大量の火山灰で多くの市民が被災した。海岸に避難した人々を救助に来たのは総合海洋研究グループの救助艇だった。救助艇は人々を浮遊人工島<亀の子島>に。そこでは深海母船と 2 隻の深海作業船が建造されていた。それらは海底基地と海底牧場を建設する適地を探すためにアムステルダム=セントポール海台に。そこには未知の遺跡が・・・。

・「アイ〜光と水のダフネ〜」(2004, 土貴智志) の深海実験都市<ノイモン> 前出

・「アクアポリス Q」(2006, 津原泰水)

海面上昇した日本。震災と大沈下で水没した都市 Q 市の沖合に浮かぶ巨大人工島”アクアポリス”を舞台とする陰陽モノ。”アクアポリス”は五角形。数千のハイカーボン・ワイヤーが海底のアンカーに繋がっており、スーパーコンピュータが波を予見しながらワイヤーの張力を変化させることによって人工島の動揺を予見制御している。本土とはシーチューブで繋がれているが、荒天時は交通が遮断され、シータクシーを利用する。

海洋SFメーリングリスト：http://groups.yahoo.co.jp/group/earth_sf/

海洋SF文庫：<http://chikyu-to-umi.com/cgi/diary/diary.cgi>

協力：少年少女海洋冒険物語：<http://www005.upp.so-net.ne.jp/sayalaut/>